

ピースフェア 2024 を終えて

第 11 回千葉市平和のための戦争展 ピースフェア 2024 in 千葉は、開催 1 か月半前に会場の都合で日程が 2 週間ずれるという事態になりましたが、大勢の皆さまの力強いご支援・ご参加を得まして、ステージ発表・パネル展示等参加者 300 名を含めて来場延べ人数は約 1900 名と、これまで以上に充実した 5 日間となりました。

テーマを「戦争と人権 戦争が奪ってきたもの 戦争につながるもの」として、どのように街が破壊されて人々が傷つき殺されたかを伝える千葉市空襲・東京空襲の体験談・絵・紙芝居、関東大震災の朝鮮人虐殺、「戦争」と「公害」の歴史をたどって、足尾鉍毒事件～水俣病～PFAS 漏出、沖縄南西諸島の戦争被害と現状、原爆・空襲の背景の「軍都」について、「好きな憲法条文シール投票」「2024 憲法の木～自民党憲法改正草案で私たちの暮らしはどう変わるの?」、「憲法前文」クイズ、また、子ども・若者・女性・日本に住む外国人等を支援する活動や沖縄の問題への取り組み、海外支援、ガザ等紛争地での支援活動と現状報告等、様々な市民団体の展示も並び、「戦死者からのメッセージ」として「武田美通 鉄の造形」2 体が戦争の現実を強烈に訴えかけました。

彩の美しい本町小学校の子どもたちの絵、千葉朝鮮初中級学校初級部のはじけるような絵から中級部のいくつもポーズを決めた等身大の絵、千葉デザイナー学院の私たち 2 つの会による戦争体験談と紙芝居の出前講座を受けて描かれた「若者の描く戦争と平和」の作品など、まさに「ピースフェア」の会場を作り上げてくれました。

去年は、ガザやウクライナの状況が日々伝えられる中、「戦争」が身近に感じられるようになったこともあるのか、千葉西高校と佐倉高校の皆さんから戦争体験の取材を受け、わかり易くまとめた佐倉高校の「千葉市空襲」の「課題発表」を掲示させていただきました。両校の皆さんを始め、例年になく子どもや若者、親子連れの来場があり、主催スタッフの大きな励みになりました。

ステージでは連日、歌と演奏・コーラス・ダンス・朗読と日頃の練習の成果が披露され、戦争と平和をテーマにした内容も多く、平和のありがたさを実感させられました。22 日(土)の集いでは、「千葉市空襲犠牲者」の読み上げ、徴用で朝鮮からきた父親と出遭った蘇我の空襲体験談、東京空襲朗読劇、空襲被害者等救済法について、「あたらしい憲法のはなし」と「日本国憲法前文」の群読、その後の県立千葉高校 2 年生の記した「原爆体験記」の紹介と、多くの方が聴き入りました。

「戦争と人権」として一「富国強兵」「殖産興業」の掛け声の下、植民地を拡大し「戦争」を繰り返した歴史は、さまざまな「人権侵害」を生み出し続けた歴史でした。惨憺たる結果に終わった「戦争」の後、国民主権の新憲法の下、優生保護法・らい予防法・外国人登録法等が制定されて「選別」は続き、「朝鮮特需」から始まった「戦後復興」。「高度経済成長」「所得倍增計画」「原子力の平和利用」推進政策は、同時にさまざまな問題・「人権侵害」を生み出してきました。それは現在も「震災復興」「ミサイル防衛」の名で繰り返され、「人」と「地方」を犠牲にした戦争の準備が戦争を招き寄せます。「人権」を守るからこそ「平和」への道ではないでしょうかと掲示しました。世界各地で日々人々が殺され、飢えに苦しむ、住むところを奪われて難民となっている過酷な現実に対して、私たちは全く無力ですが、身近なところで、差別を無くし、一人一人を大切にする社会を創るためにそれぞれができることに取り組むことで、地域から「平和」を創り出せると信じています。来年もまた、よろしく願いいたします。 ちば・戦争体験を伝える会 市川まり子